

北代縄文通信

オープン15周年記念‘北代縄文サミット’を終えて

長岡地区ふるさとづくり推進協議会 会長 中山敏明

このたび、7月26日～27日の両日にわたって、北代縄文広場・長岡小学校等を会場として富山市北代縄文広場オープン15周年記念フェスティバル‘北代縄文サミットーアイヌ文化をとおして縄文文化を学び、伝えるー’を、富山市北代縄文広場ボランティアの会の協力のもと、富山市教育委員会埋蔵文化財センターと共催し、盛大に開催することができました。ご協力・ご支援をいただいた方々に心から感謝とお礼を申し上げます。

初日26日の最高気温は富山市が全国一の38度という猛暑のなか、午前の開会式、アイヌ文化講演会、アイヌ古式舞踊・古式楽器演奏鑑賞会、縄文広場解説ツアー、午後は小学校体育館での縄文文化講演会と縄文フォーラム、アイヌ文化展示解説会、夜は富山観光ホテルでの歓迎交流会。翌27日は早朝より一転雨天となりましたが、午前の小学校体育館でのアイヌ文化に触れる体験交流の集い、午後は曇天のもと北代緑地公園で恒例の住民ふれあいフェスティバルの挙行というハードスケジュールでした。

特に今回ゲストとして北海道むかわ町の鶴川アイヌ文化協会一行12名の皆さんを招聘しました。敬和学園大学の藤田富士夫氏による縄文文化講演会では、縄文文化とアイヌ文化についてご講演いただきました。加えて、縄文フォーラムには福井県若狭町の若狭三方縄文博物館DOKIDOKI会の皆さんや新潟県津南町の農と縄文体験実習館“なじよもん”の皆さんにも参加いただきました。北代縄文館では、開館15周年記念ミニ企画展「小竹貝塚の変遷」において特別限定公開中の小竹貝塚出土1号人骨の特別解説も実施されました。

今回は4つの特筆事項がありました。①富山市ふるさとづくり推進協議会総会のほか、ケーブルテレビ富山の番組(2週間継続放映)でフェスティバルの概要を事前PRできたこと。②小学校の校長先生をはじめ学校関係者の全面的協力支援をいただき、フェスティバルを開催できたこと。③鶴川アイヌ文化協会の皆さんの歓迎交流会では長岡地区ふるさとづくり推進協議会の方や県外参加者、ボランティアの方、市関係者など総勢80名近くの方が参加し、地元民謡の披露など温かい心の交流ができたこと。④『北代縄文サミット資料集』の発行。マスコミ各社にフェスティバルの開催状況を広く報道していただくこともできました。北代縄文広場オープン15周年記念フェスティバルの取り組みは、ふるさと長岡の歴史や文化、人が輝く元気な長岡の過去・現在・未来に寄与するものと思います。

‘北代縄文サミット’を新しい活動の契機に

富山市北代縄文広場ボランティアの会 会長 西村盛一

富山市北代縄文広場オープン 15 周年記念フェスティバルの開催とその成功は、私たちボランティアの会のメンバーに新しい刺激と活力を与えてくれたと思います。

縄文文化講演会や縄文フォーラムには、藤田先生をはじめ、鶴川アイヌ文化協会の皆さん、若狭町の若狭三方縄文博物館 DOKIDOKI 会や津南町の農と縄文体験実習館“なじょもん”の方々が遠路もいとわず快くご参加いただき、それぞれのご講演やご発表から多くのことを学ぶことができました。

特に、鶴川アイヌ文化協会の皆さんが猛暑にもかかわらず、笑顔を絶やさず演技や解説に取り組まれる姿には、アイヌ文化の伝承・普及を使命とされる熱意として感動を覚えました。DOKIDOKI 会の多岐にわたる活動も、“なじょもん”のアンギン編みの伝承も、それぞれの地域の特徴を生かしながら「縄文に触れ」「縄文に学ぶ」原点を大切に活動されていることに大いに敬服いたしました。

フェスティバルの間、縄文広場では 1,000 人を超える来場者を迎えました。北代縄文館開館 15 周年記念ミニ企画展「小竹貝塚の変遷」と同貝塚出土 1 号人骨の特別限定公開がその主要因でしょうが、これを契機に縄文広場の活動が一層多くの市民に注目されると考えると、私たちにとって大いに励みになりました。今後とも史跡北代遺跡が学習と交流の場として活用されることを願い、地域の文化財を後世に伝える活動を続けたいと思います。

広場オープン 15 周年・史跡指定 30 周年を迎えて

富山市教育委員会埋蔵文化財センター 所長 古川知明

平成 11 年 4 月 29 日にオープンした富山市北代縄文広場は、今年 4 月 29 日に 15 周年を迎えました。北代遺跡は、明治 40 年に北陸地方の遺跡遺物調査のために富山県を訪れた吉田文俊氏により発見されました。その際の部分的な発掘調査で縄文土器や石器、土偶などが出土したことが、当時の『富山日報』に掲載されています。

富山県の考古学界の草分けであった早川荘作氏による一連の著書『越中石器時代民族遺跡遺物』〔大正 15 年、中田書店〕、『越中史前文化』〔昭和 11 年、中田書店〕、『富山県の石器と土器』〔昭和 37 年、清明堂〕で、北代遺跡やその採集品が紹介され、縄文時代の遺跡として広く知られることとなりました。

昭和 46 年に県住宅供給公社による宅地造成計画が立案されましたが、重要な遺跡であることから計画は撤回され、遺跡は保護されました。市教委では昭和 53～54 年に範囲確認調査を行い、遺跡の保存管理計画を策定しました。地権者のご理解とご協力によって、昭和 59 年 1 月 4 日に「本遺跡は、縄文時代中期後半を中心とする住居が営まれた大規模な集落跡で、当時の集落立地や集落構造の解明にとって貴重な資料を提供する遺跡として、北陸地方の縄文文化研究に欠くことのできない遺跡である。」との理由で国の史跡に指定されました。広場オープン 15 周年である今年、史跡指定 30 周年という節目の年でもあります。

史跡指定後、指定地等の公有化と共に北代大畑遺跡公園促進協議会と長岡地区自治振興協議会も加わって、市による環境整備の基本構想が策定され、整備事業が行われました。

当初から、地元を中心に活用を主体として運営していくことが目指されました。市からの管理運営委託の受入先となった長岡地区自治振興会が配置した広場管理人と富山市北代縄文広場ボランティアの会が中心となって、縄文土器づくり等を核とした体験学習型の史跡公園として、市民に愛される施設であるよう心を込めて来場者の皆さんをご案内しています。今後も、地元の皆さんと力をあわせ、来場者に気持ちよく過ごしていただける施設として、史跡を後世に永く伝えていけるよう努めてまいります。

北代縄文広場オープン 15 周年記念フェスティバルのあらまし

2 日間にわかって開催されたオープン 15 周年記念フェスティバル「北代縄文サミットーアイヌ文化をとおして縄文文化を学び、伝えるー」では、アイヌ文化をとおして各地の縄文文化の多様性を学び、自然と調和した各地固有の文化を守る方策を語り、縄文文化の語り部（各地のボランティア）からアイヌ文化の素晴らしさを各地で伝える機運を高め、今後各地でアイヌ文化を伝える礎とすることを目指しました。

アイヌ文化講演会でアイヌ民族が辿った歴史を学んだ後、鶴川アイヌ文化協会の皆さんの古式舞踊などを鑑賞し、最後には来場者が参加して一緒に輪踊りを楽しみながら交流しました。アイヌ文化展示解説会では、民具・写真の解説のほか、民族衣装試着という実体験をとおして見学者がアイヌ文化への理解を深めることができました。

縄文文化講演会では、アイヌ民族に伝承されてきた神謡や物語を用いて縄文文化とアイヌ文化を交差させた分析により、狩猟採集民の心性に迫ることができました。

縄文フォーラムでは、福井県若狭町の玉井氏・新潟県津南町の佐藤氏が縄文遺跡の活用事例を発表され、その後、アイヌ文化協会の木下会長、津南の広田氏、北代の西村会長を



来賓のお二人と 15 周年記念のくす玉割り



鶴川アイヌ文化協会木下会長による祝辞



中井事務局長によるアイヌ文化講演会



古式舞踊リムセ・バッタキ（バッタの求愛）

交え、藤田氏の司会による座談会形式での討論が行われました。文化財や史跡の保存は難しいことではなく、「地域にあるもの」で「子どもに残したいもの」を「地域と行政が連携し、情報を共有することで意識を高めあうこと」と締めくくられました。

炎天下のなか県内外からご来場いただいた多くの皆さん、講師・パネリストの皆さん、運営スタッフの皆さんに心からお礼申し上げます。



ポロ・リムセ・ホリッパ（大きな輪踊り）での交流



ムックリ（口琴）演奏



アイヌ文化展示解説会の展示品（一部）



アイヌ文化展示解説会



藤田富士夫氏による縄文文化講演会



縄文フォーラムの司会・パネリストの皆さん

北代縄文広場ホームページ

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm>

北代縄文通信 第39号：編集・発行 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター